

# 1 この科目の構成について

教 科	国語	科 目	国語総合	単 位	5単位
対象コース	カレッジ (スーパーカレッジクラス)	対象クラス	1年1組		
使用教科書	国語総合(教育出版)				
使用副教材	完全傍訳 やさしくくわしい古典文法 三訂版(尚文出版) 記入してわかる やさしくくわしい古典文法ノート 修訂版(尚文出版) 重要古文単語 315(桐原書店) 新明説漢文(尚文出版) 新明説漢文基本練習ノート(尚文出版)				

# 2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学 習 目 標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	<p>国語の教科に求められるのは「明瞭かつ適切な表現力」と「合理的かつ客観的な思考力」、そして「分析的で的確な理解力」を習得することです。</p> <p>上述の三つの要素を向上させるためには、知識を蓄え、それを応用的に問題解決に用いることが必要です。知識とは、語彙力、文法理解、言語文化、歴史的意義といったものを記憶することです。記憶した知識を用いて、文章に記されている真意を読み解く手段として用いることが応用的問題解決です。この活動を通して言語感覚が磨かれていきます。さらには、知識の増大により、興味・関心の幅が広がり、今まで意識していなかった情報にも鋭敏になり、感受性と言語文化への関心が高まっていくこととなります。</p> <p>以上が本校の「国語総合」の目標です。</p>
学 習 内 容	—この科目で学習する大まかな内容—
	<p>以下の四つの分野を学びます。(3)・(4)は1年次で特に力を入れて学習します。</p> <p>(1)現代の評論文…社会的事象に関心を持つと同時に、客観的読解力を身につけます。</p> <p>(2)近現代の文学的文章…文学作品を味わうと同時に、登場人物の心情を的確に把握する力を身につけます。</p> <p>(3)古文…代表的な作品を通し、文章読解の基礎を学びます。また、文語文法を徹底的な演習を通じて身につけます。</p> <p>(4)漢文…漢文を読解するための基本となる知識・句法を身につけます。</p>
学 習 方 法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	<p>(1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。ノートとは正答を記すためのものではなく、正答に至るまでの思考のプロセスを書き付けるためのものです。問題文(口頭での質問も含む)の意図を読み取り、思考し、答えを表現する「手順」を授業で体得してください。</p> <p>(2) 家庭 予習で次に習う部分を読み、読解(内容理解や口語訳)をしてください。授業でそれを確認します。復習は、習った事項の整理と暗記にあててください。</p>

# 3 この科目の評価方法について

評 価 方 法	—何をを使って評価するのか—
	<p>(1) 定期考査 → 年5回実施します。授業での学習内容から出題します。また、関連する応用問題も出題します。</p> <p>(2) 小テスト → 漢字テスト・古文単語テストを実施します。</p> <p>(3) 長期休暇の課題 → 読書感想文・現代文・古文の演習問題を宿題として課します。</p> <p>(4) 学期中の課題 → 授業理解の確認のための宿題を課します。</p>
評価における定期考査の割合	
	70%

# 4 この科目の評価の観点について

評 価 の 観 点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	<p>(1) 関心・意欲・態度 問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。</p> <p>(2) 思考・判断・表現 合理的であるか、根拠を示すことができるかが評価の軸になります。空理空論では評価の対象になりません。</p> <p>(3) 技能 口頭・文章ともに、受け手に配慮した簡潔明瞭な表現であり、文章の構成が整っていることを重視します。</p> <p>(4) 知識・理解 定着度だけではなく、知識を得ようとする日常の取り組みも評価します。</p>

年間学習計画		一この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか一	重視する評価の観点					
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容		関	思	技	知
1	4	<b>現代文分野</b> 評論（一）「水の東西」	評論の文章の流れをつかみ、筆者の思いや考えを理解します。抽象的な言葉や概念を具体例や言い換え表現を通して理解する読解方法を学びます。		●	●	●	●
		<b>古典分野</b> 古典文法入門 歴史的仮名遣い 文・文節・単語 活用のある自立語 活用と活用形の主な用法・用言の活用	古典分野では現代仮名遣いと歴史的仮名遣いの違いを確認します。文法の学習をすすめていくうえで文節のはたらき・品詞名は必ず覚えなくてはなりません。どんなはたらきの文節があり、どんな品詞があるのか、まとめて学びましょう。また、活用形、活用の種類、活用表の暗記へと学習を進めていきます。		●	●		●
	5	一説話「児のそら寝」（宇治拾遺物語）						
		<b>現代文分野</b> 小説（一）「羅生門」	短編小説のおもしろさを味わい、その鑑賞の仕方を学びます。すぐれた描写、効果的な表現を学び、想像力・感受性を豊かにします。加えて、小説の主題を自己の問題としてとらえ、考える力を養います。 <b>道徳教育を実施</b>		●	●		●
	6	<b>古典分野</b> 付属語①（助動詞）過去・完了・打消 二随筆「雪のいと高う」（枕草子） 付属語②（助動詞）自発・可能・受身・尊敬・使役	古文の代表的な作品を読み、このような随筆が書かれた時代背景について考えます。作品の概容に触れると同時に、筆者の感性や考え方も確認します。また、ここでは用言の活用を復習します。さらに、古典を読む上で自立語のみではなく、付属語にも目を向ける必要性を感じ取り、文法学習をより深めていきます。		●	●	●	●
	7	二随筆「亀山殿の御池に」（徒然草） <b>現代文分野</b> 評論（二）「自由の制服」	比較的長めの評論を読むことで、文章の論理的な構成の仕方を理解します。また、段落相互のつながりや役割を考え、筆者の文章表現の意図を学びます。筆者の思考を追うことで、自らの思考や視野を拡大する手がかりとしましょう。		●	●	●	●
2	8	<b>古典分野</b> 一漢文入門 訓読の仕方・書き下し文の作り方 二故事 「借虎威」「朝三暮四」「塞翁馬」	漢文分野では、漢文の訓読の方法、書き下し文の書き方から始めます。また、有名な逸話の読解を通して、漢文の知識をさらに広げます。ここで学ぶのは基本的な句法で、句法学習のベースとなるものばかりです。基本的な句法を着実に覚えていきましょう。		●	●	●	●
		9	<b>現代文分野</b> 評論（三）「仮想化する現実世界」	抽象的な言葉や概念について、具体例や言い換え表現をもとに論理的思考で理解し、筆者の主張を正確に把握する力を養います。また自己と世界を取り巻く関係について、意識的に考える態度を養います。		●	●	
	10	<b>古典分野</b> 付属語③（助動詞） 推量・推定・断定・願望・比況など 三物語「芥川」（伊勢物語）	助動詞について学習を進めていきます。助動詞を制する者が古典文法を制するといわれるほど、助動詞の学習は重要です。助動詞の意味・活用・接続・他の語との識別法などを、多くの例文を通して完全にマスターしましょう。また、歌物語を通して、和歌を読解する力を身に付けます。		●	●	●	●
		11	<b>現代文分野</b> 小説（四）「夢十夜」	幻想的な文章でつづられる小説の主題をとらえ、抽象的な表現と茫洋とした雰囲気の中からは意味を見いだす思考力・想像力を養います。		●	●	
	12	<b>古典分野</b> 四詩文 漢詩の鑑賞	唐詩の鑑賞を通じて基本的な漢詩のルールを理解します。また、自然・望郷・別離などのテーマの詩を読み、有名な詩人たちのものの見方、感じ方を理解します。		●	●	●	●
	3	<b>現代文分野</b> 評論（四）「ブナの森で」	自然と人間との関係のあり方を、それぞれの営みにおいて問い直す文章です。構成や展開を確かめながら筆者の主張を的確に読み取っていきます。また、文章で取り扱われているテーマについて、自分なりの考えを持つようにしましょう。 <b>道徳教育を実施</b>		●	●		●
3	1	<b>古典分野</b> 三史伝「死諸葛走生仲達」	反語・使役などの句形や再読文字に習熟し、訓読や口語訳の際に正確に扱えるようにします。		●	●	●	●

年間学習計画				—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—				重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知	関	思	技	知
3	2	<b>現代文分野</b> 小説(二)「清兵衛と瓢箪」	登場人物の行動や考えを物語の進行に即して読み取ります。 簡潔な表現や描写の文体を味わいましょう。	●	●		●				
	3	<b>古典分野</b> 付属語④(助詞) 副助詞・接続助詞・係助詞 四和歌「万葉集」「古今集」「新古今集」 五日記と紀行「白河の関」(奥の細道)	古文の主立った助詞の用法を学習します。特に係り結びの法則について、特別な用法まで理解できるようにします。また、それぞれの和歌の主題と修辞法についての理解を深めます。さらに代表的な紀行文を読むことによって、当時の旅の情緒を味わいます。	●	●	●	●				